BUNGOONO GEOSITEFILE
豊後大野ジオサイトファイル

沈堕の滝

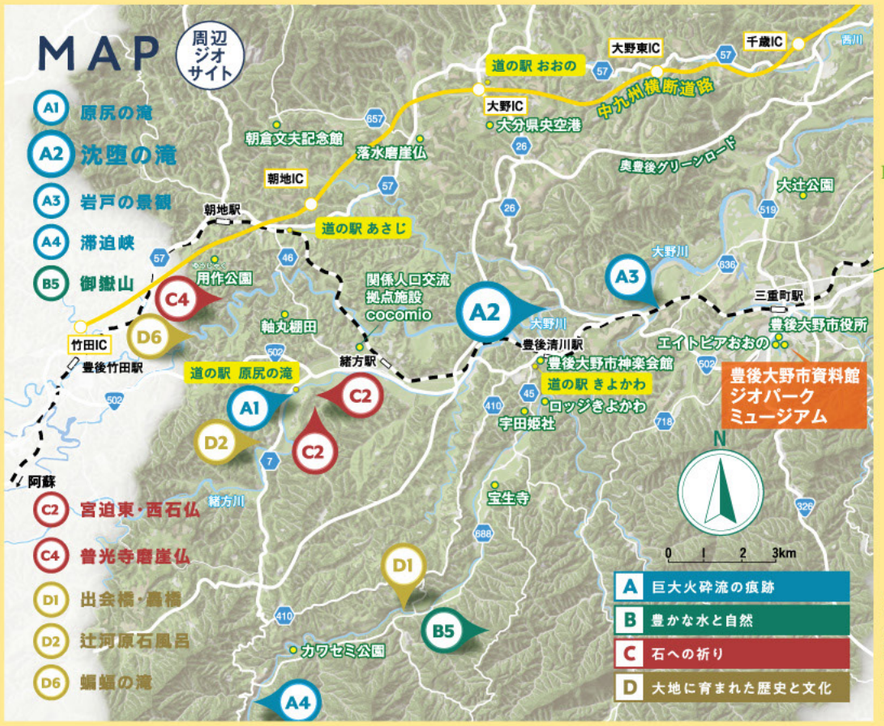
CHINDA FALLS / OONO

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark

持って、歩いて、ひもとこう。

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark

MAP 周辺ジオサイト





周辺情報

お土産買うなら!



道の駅 おおの

大分県豊後大野市大野町田中43-10
✆0974-34-3231 P82台
営9:00～18:00
手作りまんじゅうや野菜等が豊富に揃う。レストランでは地鶏「豊のしゃも」を使ったバリエーション豊かなメニューが並ぶ。

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 http://bungo-ohno.com
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場1200番地 豊後大野市商工観光課内
TEL 0974-22-4089 FAX 0974-22-3361

おおいた豊後大野ジオパークガイド
TEL.080-2708-7809



豊後大野ジオサイトファイル

沈堕の滝

沈堕の滝は、大野川本流にある「雄滝」と大野川の支流である平井川にある「雌滝」の2つの滝によって構成されています。雄滝は幅100m、高さ20m、雌滝は幅10m高さ18mあります。この滝は、今から約600年ほど前に活躍した「雪舟」により水墨画として描かれ、江戸時代の地誌「豊後国志」にも記載されています。「垂直分かれて十三条をなす」と表された滝の流れは、人の手が入ることで実に数奇な運命をたどり現在に至っています。

阿蘇の巨大噴火にうまれ、近代化に活用されて。

沈堕の滝を形成している岩石は、阿蘇火山の約９万年前の巨大噴火による火砕流によってもたらされたものです。この阿蘇から流れてきた火砕流が冷えて固まったものが、溶結凝灰岩です。冷えて固まる際に無数の縦方向の柱のようなひび割れ（柱状節理）が生じ、それらが水によって削られることで巨大な滝が形成されました。

沈堕の滝は古くから景勝地として知られるだけでなく、近代以降は大野川通船や水力発電などの舞台となりました。

① 大野川通船と魚道跡

明治時代になり、犬飼より上流での大野川通船が活発になりましたが、沈堕の滝は船で越えられないため、滝の付近に蔵所を設け、人や物資を積み替えて通船していました。同じように魚も滝を越えることができず、アユなどの回遊魚はここより上流には登れませんでした。そこで、大正 2年にトンネルの魚道を設置することで滝の上流と下流をつなぎ、アユをさかのぼらせることに成功しました。その後、魚道のトンネルは岩の崩落により壊れてしまいましたが、右岸側の柱状節理の岩壁にその跡が残っています。



黄色い線の部分が魚道だったと考えられる

② 沈堕発電所跡

この沈堕の滝では、滝の落差を利用して、発電が行われています。明治 42年(1909)、滝の上に堰を作り、発電をはじめました。電気は大分・別府間の路面電車に送られ、日本の近代化に役立てられました。その後、堰の高さはさらに上げられ、安定した電力の確保が実現しましたが、一方で、電力の確保と引き換えに落水しなくなったことで、鎮田瀑図に見られるような美しい景観を失ったのです。

※現在の発電所は 2kmほど下流に移されています。



旧発電所操業時

修景工事

地域の方々はこの滝の復活を切に願っていました。

ただの岩壁と化していた滝は、平成8年(1996)、ついに復活。九州電力の手により崖がこれ以上崩落しないよう大がかりな修景工事を行い、さらに雪舟の描いた鎮田瀑図を参考に「垂直分かれて十三条をなす」と表された滝の姿がよみがえりました。



落水のない頃の沈堕の滝



巨匠が描いた名瀑



雪舟画「鎮田瀑図」（複製）豊後大野市資料館蔵